

Osseodensification

ガイド付き拡大移植

初期のリッジ幅が3.0mm以下のケースに適応



Guided Expansion
Graft Protocol

- パイロットドリルを時計回り(CW)モードで使用し、インプラントの深さと角度に掘削する
- 骨の可塑性を高め、オステオトミーを拡大するために、デンサーバーを少量ずつ使用する
- 最終拡大直径は「初期リッジ幅+1MM」の公式を超えないこと
- 形成された新しいソケットに、70/30の海綿骨/皮質骨の同種移植片を移植する
- 3-6ヶ月の治療期間を設ける
- デンサーバーを使用して、インプラント埋入の準備とオッセオデンシフィケーションを行う

ステップ1:

インプラント位置に適した技術を使用して軟組織をフラップし、インプラントの深さと角度まで掘削します。好ましくは1.3mm - 1.5mmの狭いパイロットドリルを使用します。(灌流を伴う時計回りの速度800-1500rpm)

ステップ1:



ステップ2:

インプラントの種類と直径に応じて、対応するインプラントシステムドリルプロトコルに従い、最も小さいデンサーバーを使用して計画されたインプラント長より1mm深く掘削します。デンサーバーを逆回転モードで使用します(逆回転、ドリル速度800-1500rpm、灌流を伴う)。骨の可塑性を高め、オステオトミーを拡大するために、デンサーバーを少量ずつ使用します。例として、パイロット後にデンサーバー2.0を使用し、デンサーバー2.3で拡大し、デンサーバー2.5を使用してデンサーバー3.0を導入します。

ステップ2:



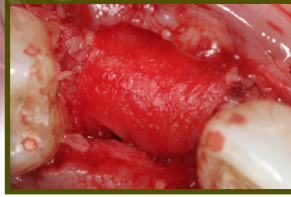
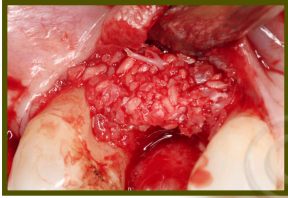
ステップ3:

拡大を達成するまで、オステオトミー直径を小刻みに増やします。バーの直径が大きくなるにつれて、骨は最終的な拡大直径までゆっくりと拡大します。最終拡大直径は「初期リッジ幅+1mm」の公式を超えないこと。例として、3mmのリッジから始める場合、最終的なオステオトミー直径は $(3+1) = 4\text{mm}$ を超えないことが期待されます。

ステップ3:



ステップ4:



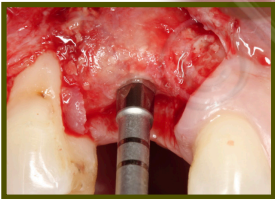
ステップ4:

新たに形成されたソケットやオステオトミーを含む周辺領域に、好ましい骨移植材料、理想的には70/30の海綿骨/皮質骨比の材料を移植します。膜を使用し、緊張のない一次閉鎖を達成することを目指します。3-6ヶ月間の治癒を許可します。

12 WKS Healing



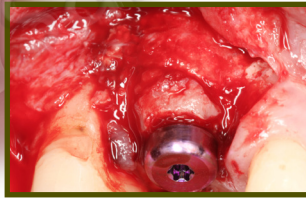
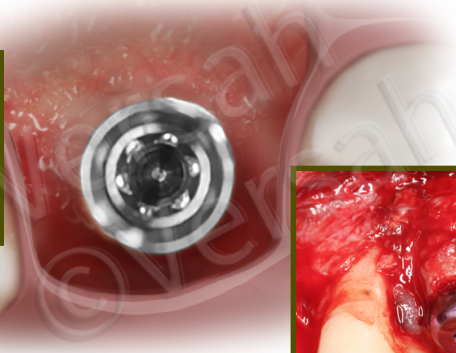
ステップ5:



ステップ5:

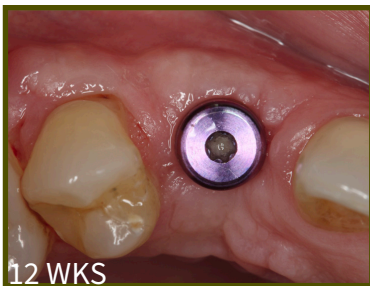
必要に応じて、オッセオデンシフィケーションを実施してさらに拡大し、インプラントを埋入します。デンサーバーを少量ずつ使用します。オステオトミーを0.5mm-0.7mm以上拡大しないようにし、上顎では0.5mm、下顎では0.2mm-0.5mmを超えないようにします。

ステップ6:



ステップ6:

インプラントを埋入する際に手術モーターを使用する場合、設置トルクの最大値に達したときにユニットが停止することがあります。トルクを示すレンチを使用して、インプラントを適切な深さまで手動で治療計画に含まれる適切な直径のインプラントを手術時に用意します。



12 WKS



12 WKS



2 YRS



2 YRS

Case courtesy of Dr. Salah Huwais

詳細については、versahinternational.com/od-published-papers/ をご覧ください。

臨床医の判断と経験は、この臨床実践提案プロトコルと共に適用されるべきです。



©2023 Versah,LLC. All rights reserved. Versah and Densah are registered trademarks of Versah,LLC. I0182 REV08

www.versah.com